

ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド –インドの匠–

最近のインド株式状況と今後の見通し

2018年11月26日

お伝えしたいポイント

- ・ 足元の運用状況: **不安定な外部環境、ノンバンクの債務不履行などから、インド株式市況は低迷も、中型株には変化の兆し**
- ・ 今後の見通し: **短期的には値動きの荒い展開が想定されるが、中長期では外部環境の安定に伴って底堅く推移**
- ・ 今後の運用方針: **中型株の利益回復が予想される中で、金融や一般消費財・サービスなどを中心に投資**

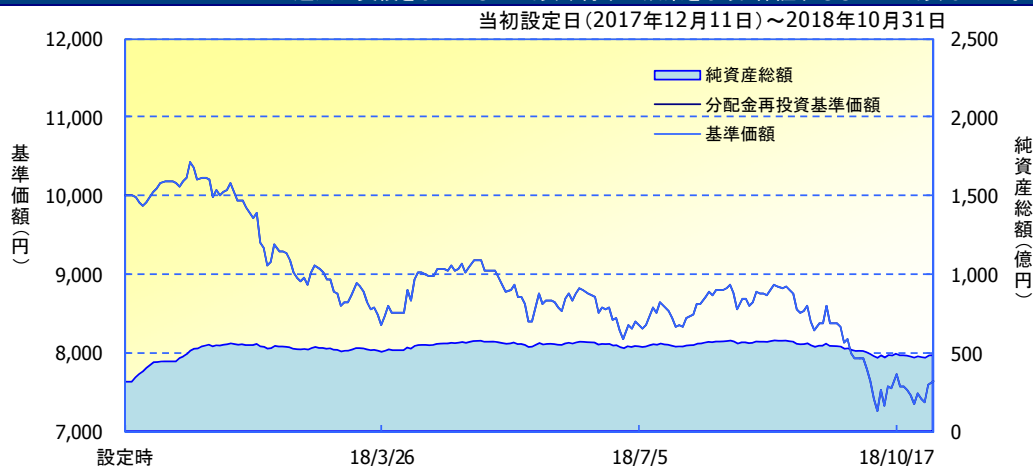
＜基準価額・純資産の推移＞

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2018年10月31日現在

基準価額	7,639 円
純資産総額	484億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-4.5 %
3カ月間	-11.4 %
6カ月間	-16.0 %
1年間	----
3年間	----
5年間	----
年初来	-24.5 %
設定来	-23.6 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

最近のインド株式市況

＜不安定な外部環境、ノンバンクの債務不履行などから、
インド株式市況は低迷も、中型株には変化の兆し＞

インド株式市場（中型株）は、2018年以降、米国の長期金利上昇、一部の国営銀行の不祥事などで投資家心理が悪化したことなどから軟調な展開が続きました。バリュエーションに対する警戒感や、キャピタルゲイン税の導入、インド国内籍株式投信の再分類実施などの影響、原油価格上昇や米中貿易摩擦といった外部要因に影響を受けながら、中型株式市場の売り圧力が高まりました。

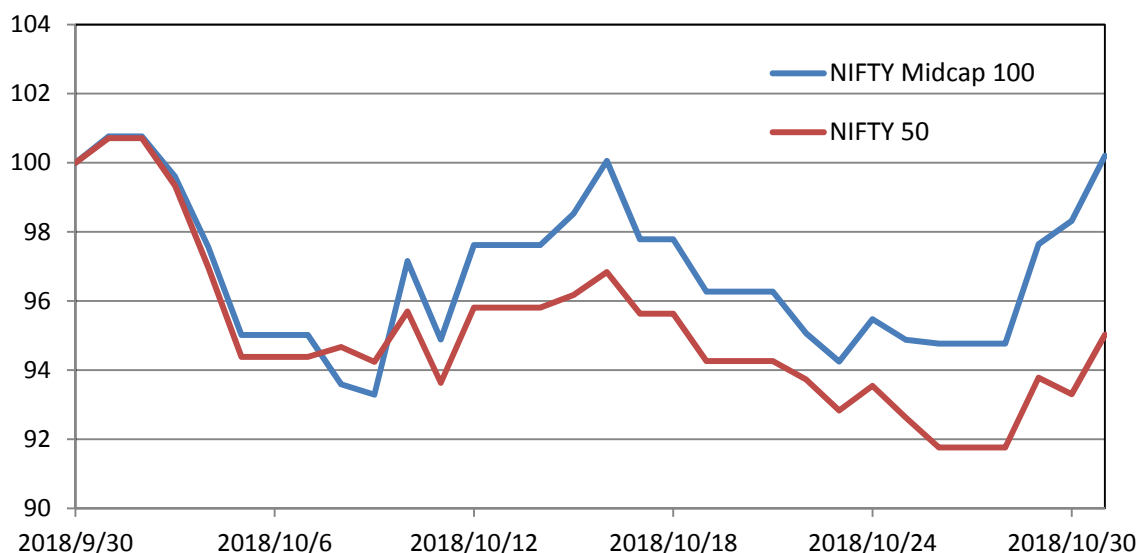
その後、10月以降も株式市況は弱含む展開となりました。足元の弱気相場の要因としては、①米国の利上げ懸念、高水準で推移する原油価格を背景とした経常収支悪化、米中貿易摩擦などの外部環境悪化に起因したインド・ルピー安、②インド大手ノンバンクがデフォルト（債務不履行）した影響（※）、などが挙げられます。

しかし中型株は、①原油価格が下落基調で推移したこと、②政府支援策による金融市場の流動性改善期待、などが支援材料となり、10月末には9月末の水準まで反発するなど、大型株対比で良好なパフォーマンスとなりました。

（※）インドのインフラ・プロジェクトなどに融資を行ってきたノンバンクの不良債権増加や金融市場の流動性低下に対する懸念が高まった。

＜NIFTY Midcap 100(中型株)とNIFTY 50(大型株)の推移＞

（現地2018年9月30日～2018年10月31日）



2018年9月30日＝100として指数化
（出所）ブルームバーグ

今後の見通し

＜短期的には値動きの荒い展開が想定されるが、中長期では外部環境の安定に伴って底堅く推移＞

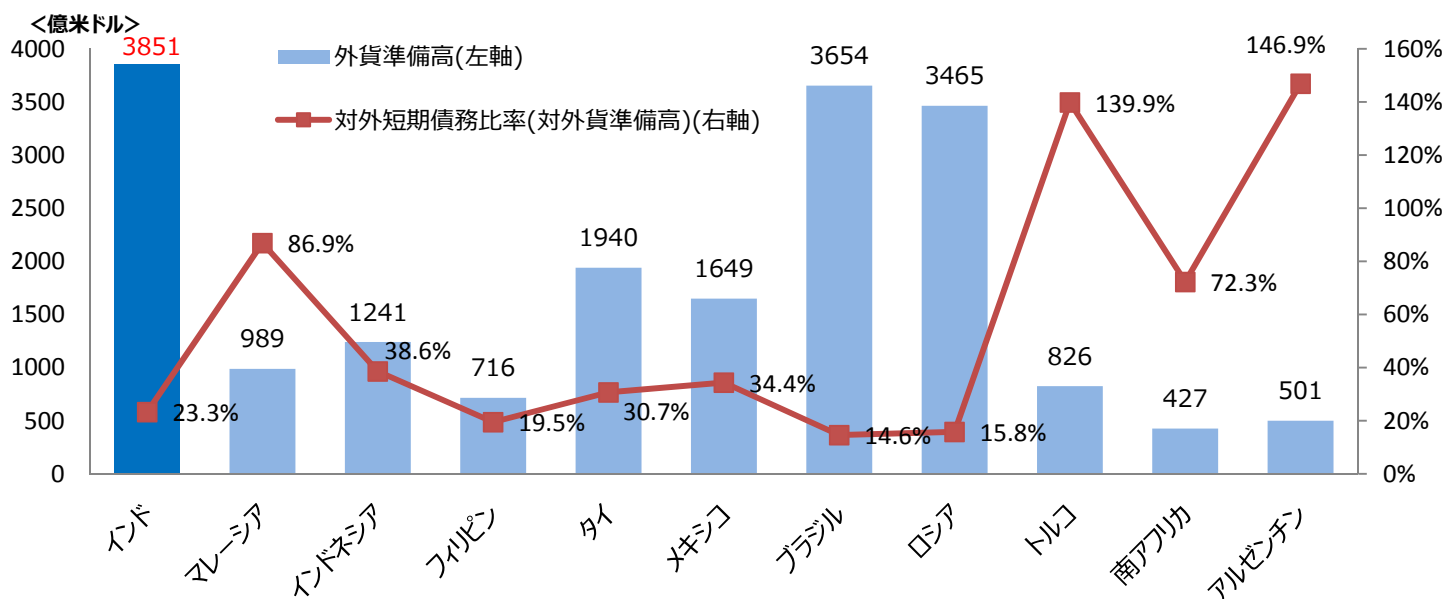
短期的には、米国の利上げによる新興国からの資金流出懸念、原油価格の動向、米中貿易摩擦、などがリスク要因となり、株式市場は不安定な状況が続く可能性があると考えています。

しかし、足元のインド株式市場の調整をもたらした信用不安やルピー安が引き続きマーケットを揺るがす可能性は、かなり減少してきたと考えます。ノンバンクの信用不安については、政府と中央銀行主導で同社経営陣の交代や、預金支払準備率の引き下げなどで速やかに対応し、今後必要に応じて市場介入も行うことを示唆するなど、不安の拡散防止に積極的に取り組んでいることから、株式市場への影響は限定的とみています。

また、インド・ルピー安についても、インドは他の新興国と比べて豊富な外貨準備高を有しており、為替介入の余地が大きいことや、外貨準備高に対する対外短期債務の比率も低いことから、更なるインド・ルピー安が進み、マーケットに悪影響を及ぼす可能性は高くないと考えます。

＜主要新興国の外貨準備高および対外短期債務比率(対外貨準備高)＞

(2017年12月末時点)



(出所)ブルームバーグ、World Bank、IIF、IMF

今後の運用方針

＜中型株の利益回復が予想される中で、金融や一般消費財・サービスなどを中心に投資＞

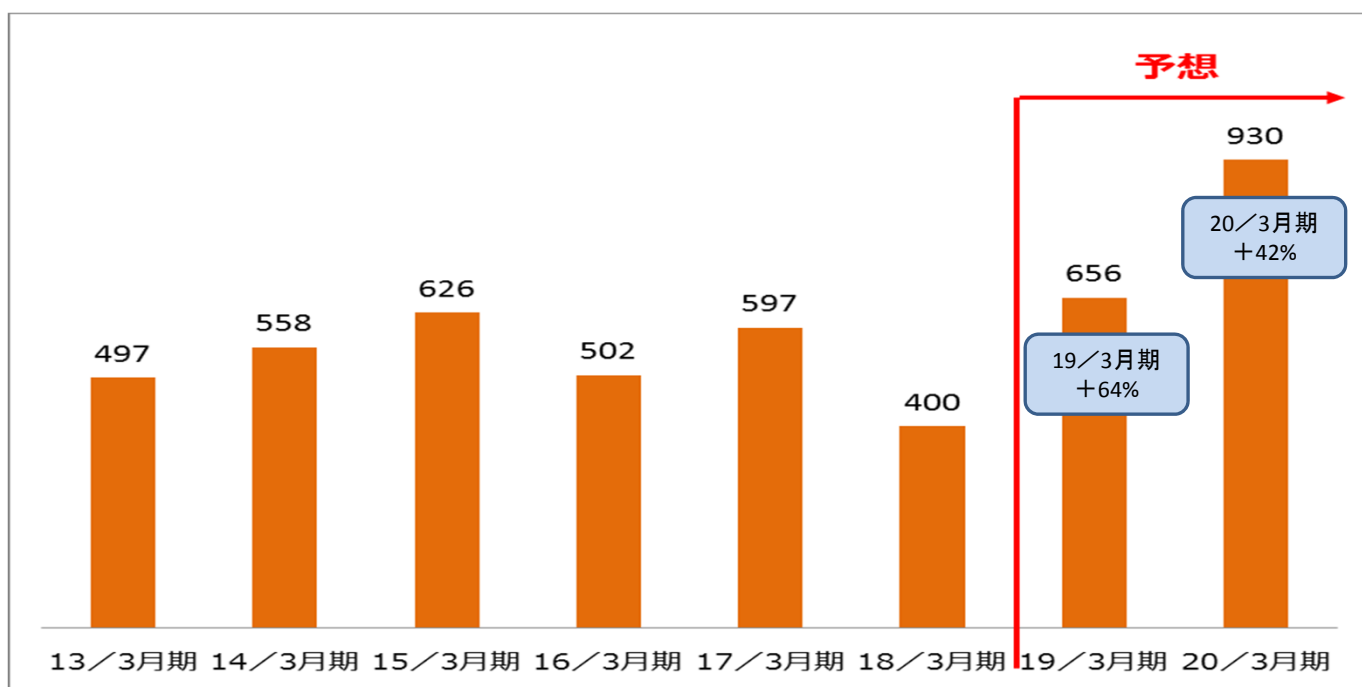
インド中型株の利益は、2016年末に実施された高額紙幣廃止や2017年7月に始まったGST（物品・サービス税）制度などによる混乱を受け、ここ数年間やや軟調な動きを見せてきました。しかし、現在はこうした悪材料が出尽くし、今後利益は着実に伸びていくことが期待されます。

当ファンドでは、経営者のクオリティや事業の成長性等に着目し、徹底した調査を行うことで高い成長ポテンシャルを有する銘柄を選別し、株価バリュエーション、ファンダメンタルズ等を勘案してポートフォリオを構築してまいります。セクター別では、住宅ローンやクレジットカード事業などを中心とした個人向け金融サービスの普及から高い利益成長が期待される金融セクター、GST制度の定着から恩恵を受ける一般消費財・サービスセクター、インド政府によるインフラ投資拡大から恩恵を受ける素材セクターなどに投資妙味があると考えます。

また、農村部の所得水準向上により恩恵を受けると予想される生活必需品関連銘柄などにも投資妙味があると考えています。

Nifty Midcap 100のEPS(1株当り利益)推移

（2018年9月末時点、単位：インド・ルピー）



（出所）ブルームバーグ、ミレーアセット・グローバル・インベストメンツ

ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド – インドの匠 –

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

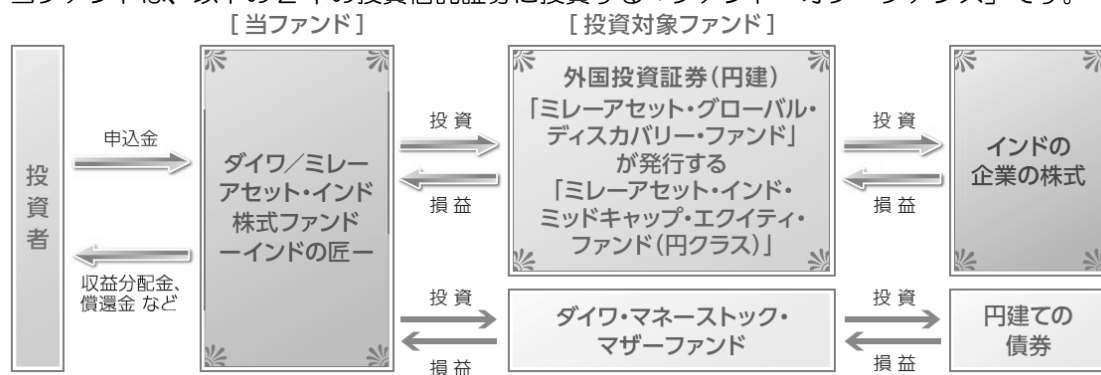
ファンドの目的・特色

ファンドの目的

インドの企業の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. インドの企業の株式の中から、財務状況、成長性、経営の質等に着目し投資します。
(注)「株式」…DR（預託証券）を含みます。
2. インド株式の運用は、ミレーアセット社が行ないます。
3. 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。



※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「中小型株式への投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド –インドの匠–

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.24%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.215% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.68%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.895%（税込）程度	
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

大和証券

Daiwa Securities

商号等

大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会

日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会